

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(A,B,C 3ユニット共通)

事業所番号	2795200027		
法人名	社会福祉法人 なみはや		
事業所名	グループホーム桜ノ宮なごみ		
所在地	大阪市都島区中野町1-12-11 アロンディール3階		
自己評価作成日	平成30年12月7日	評価結果市町村受理日	平成31年1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成30年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症を患っている方でも、共同生活を通じ個々の意思を尊重しながら自立に向けた支援を行っている。
1年を通してホームの行事を豊富に行い、日帰りバス旅行、夏祭り、外出レクリエーション、特に隣には桜ノ宮公園があるということもあり春には盛大に花見を開催している。行事の際には緑橋、松原、と同じグループ内のグループホームからも参加して頂き交流を深めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は「地域を含め全ての人々の尊厳を大切に」という理念を掲げ、利用者を人生の先輩として敬い、常に丁寧な言葉遣いや対応を心掛けている。利用者一人ひとりの思いや希望を真摯に汲みとり、その思いに沿うと共に本人が出来る事、食事の準備や後片付け、洗濯物の整理、掃除等を一緒に行い、自分の役割・生きがいとし、家族の一員として誇りを持って仲間と一緒に暮らせるように支援している。利用者の平均介護度は3.2と高いが、排泄の自立支援に注力しているお蔭で、オムツ使用者は1人で完全自立者が半数以上である。ホームは近くに桜之宮公園や桜宮神社があり、大川が流れる恵まれた環境の中にあり、初詣でや桜祭りや日々の散歩に行っている。家族も含むグループ全体での日帰りバス旅行や夏祭り、クリスマス会など多彩な行事は利用者・家族・職員と地域の人達の楽しみと交流の場となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	すべての人の尊厳を尊重するという理念に基づき、当ホームでは職員の心得15か条を実践、管理者と職員で会議の場で話し合い、入居者様、御家族に接している。また、「理念」「職員の心得」をユニット内に掲示し、日々のケアの中で職員同士その都度話し合い実践につなげている。	法人理念に沿って、当ホーム理念を「利用者・家族・職員及び地域の方々全ての人の尊厳を尊重する」とし、併せて「職員の心得15か条」の行動指針の実践に努めている。「理念」および「心得15か条」は各ユニットに掲示し、会議で常に振り返ると共に家族・取引業者及び地域の人達へ広く周知・理解・協力を求めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入させて頂き、盆踊り、区民祭等の町内の行事に参加し近隣より獅子舞踊り等の受け入れを行っている	町会に加入し、地域の案内図にホームを掲載してもらっている。盆踊り・区民祭り・ふれあい喫茶・老人会のカラオケ・体操教室等の地域行事に参加する一方、神社の獅子舞・習字や絵手紙、折り紙細工の指導ボランティアを受け入れ、ホーム祭に近隣住民を招待するなど地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を開催して、地域の方々へ認知症の方々に対する支援の仕方等、積極的に発信し、理解を深めて頂けるように努力している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地域の方々にはしっかりと情報開示し、また、その都度積極的に意見をとり入れ入居者様個々に合ったサービス向上へとつなげている。	地域包括支援センター職員・町会長・婦人部長等に呼びかけて、奇数月に開催するように努めている。会議では、利用者および職員の状況と行事・活動の報告をして、意見交換を行っている。しかしこのところ、開催間隔が大きく開き且つ参加メンバーが極めて少ない。	地域密着型サービス事業の観点から、自治会・老人会・婦人会代表(役職限定せず)、民生委員、協力医、看護師、薬剤師、他GH管理者、利用者・家族等、幅広いメンバーへ根気強く参加を呼びかけ、運営推進会議を定期的に開催し、活発な意見を交わして、活性化されることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に区役所の担当者の方にも参加していただき、当ホームの状況を報告し、当ホームにおける現状を理解、把握していただいた上で、ご意見を伺う等、協力していただけるよう取り組んでいる。	区の窓口である介護保険課や生活支援課へは頻繁に出向き、ホームの運営状況を説明し、運営上困っている事や気になる点について相談してアドバイスや情報を貰っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを常備し、職員に指導しており、対応を随時実施している。	身体拘束適正化対策マニュアルを基に、3カ月毎に研修を行い「拘束の弊害」と「禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解して、全職員が身体拘束をしないケアに取り組んでいる。各ユニットドアは施錠しているが、利用者が外に出たような素振りが有れば職員が一緒に外出している。玄関とエレベーターは施錠せず、利用が閉塞感を抱かないように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症介護実践者研修に参加し虐待について学び、他職員にも指導している。順次講習に参加できるよう取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実践者研修等を通し、権利擁護に関する制度についての理解と活用を学んでもらい会議の場で他スタッフにも理解を深めてもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様及びその家族様へ説明を行い、理解して頂いたうえで承せて頂いています。不安・疑問を持たれた時は、詳しく説明するよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、よく面会に来られる家族様には随時報告し、遠方の家族様には手紙や電話による報告を行い、定期的に運営推進会議を設け、入居者様、家族様の意見、要望を承り対応させて頂いている。	利用者の意見・要望は、日々の関わりの中で表情や仕草等からも察知し、家族には面会時健康状態を初めホームでの暮らしの状況を詳しく説明し、意見要望を丁寧に聞き、運営に反映するように努めている。最近家族の提案で、利用者の安全と職員の負担軽減の観点から、重度利用者の車椅子移乗を2人介助にした事例がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回全体会議を設け、職員の意見や提案に限らず、疑問、不安等様々な事を話し合う機会を設け、サービスの質の向上に活かしている。	毎月末、理事長が出席する職員全体会議の他、リーダーが主催するフロア会議でケアを中心に行事、外出、事故・ひやりハット、食事・外食、シフト等に関する意見・要望が多く出され、皆で検討してサービスの向上に繋げている。先般の地震・台風を体験して、緊急連絡網の見直しをした。懇親会も度々催し、管理者と職員間のコミュニケーションは良く、結束力もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議、懇親会を設けることで職員の意見、悩みを聞き、対応することで仕事に対するモチベーションを維持しています。公休の確保を図る為の人員を配置し、昇給、賞与の査定を積極的に行い、職員に評価されることを意識してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度のフロアミーティングで、緊急時対応の講習会を開いたり、教育用DVDを見て意見交換をしている。外部研修は、認知症実践者研修をはじめ様々な研修を受講させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流があるグループホームに赴き、見学や話す機会を設けて、良いところは取り入れるようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との話の中でさりげなく要望、本音等を伺い当ホームで安心した生活ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族面会時、また電話にて出来るだけ家族様の様々な立場から、ご意見やご要望を拝聴できるように対処している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、御家族の話を伺い、多職種からの意見も参考にし、その入居者様に今何が必要なのかを探り対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力に応じ、役割(洗い物、掃除)等を持って頂いている。又、一緒に食事をしたり、ゆっくりと談話したりして過ごす時間を大切にし、家族の様な関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	旅行やイベントへの参加をご家族へ呼びかけ、賛同していただいている。また、外泊や外出等もご要望等があれば随時対応させて頂き、御家族と共に本人様を支えていけるような関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	当施設への面会は可能な限り、自由にして頂いている。その方が行きたいなじみの場所等には、御家族と話し合い、協力してそこへ行けるよう配慮している。	子供の頃からの友人や以前の住まいの近所の知人の訪問は少なくなっているが、訪ねて来れば温かく迎えお茶を出したりしてゆっくりと過ごせるように支援している。馴染みの美容院やスーパー、墓参り、帰宅等は家族の協力で馴染みの関係が途切れないように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士、気軽に話ができるよう座席の配置など日々試行錯誤し、調和を図り、他フロアの入居者様とも関わりあえる機会を設け、お互いに、支えあえるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて相談して頂き、他サービス利用の希望時にはこれに関しての情報提供等のフォローをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の自己決定を最優先にしたケアに努めており、困難な場合は、これまでの生活歴や性格、趣味などご家族から情報を得て、出来る限り本人様の立場に立ったケアに努めている。	入居時に本人・家族から聞き取ったそれまでの生活歴や趣味・特技をまとめたフェースシートを基に、その後のホームでの暮らし方の希望や意向の変化を日々の関わりの中で、特に入浴や散歩等の心身のゆったりした個別ケアの時に把握するように努めている。その情報を皆で共有・検討して、本人本位の介護計画に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様及びご家族には十分な聞き取りを行い、把握に努めており、必要に応じ、在宅時のサービス関係者や介護支援専門員等に情報提供を依頼している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご自身にて出来る範囲の事は、見守りながら行っていただき、無理のない程度のADLの向上に努め、それらを全職員に把握、周知徹底するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様やご家族より話を聞き、フロアミーティングを通して、様々な意見を出し合い介護計画を作成している。	本人・家族の要望とアセスメントシート・支援経過記録・モニタリングの結果と医師・看護師の意見を基にフロアミーティングで話し合い、本人の心身の現状に即した介護計画を作成している。3カ月毎にモニタリングを実施し、変化が無ければ6カ月で見直しをしている。途中で状態の変化が有れば、その都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を活用し、介護経過に残し、定期的にモニタリングを行い計画に見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「孫の結婚式への参加」、「ステーキが食べたい」等、その時々生まれるニーズに対して既存のサービスにとられない柔軟な対応で支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努めており、地域包括から紹介を受け、ボランティア団体、有志者を招き施設を地域の憩いの場となるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所の連携医療機関についての説明をし、今までの本人様のかかりつけ医との選択をして頂き本人様、御家族がどのように医療を受けたいのかも聞き取りを随時行っている。	かかりつけ医は本人・家族の意向を尊重している。現在内科は全員協力医の週1回の訪問診療を受診している。口腔ケアを含めた歯科の週1回の訪問診療は、希望者が受診している。訪問看護師は、週3回訪問し、24時間対応体制が出来ている。その他専門科は、原則として家族付き添いとしているが、ほとんど職員が付き添い支援し、結果を家族に報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医療機関の在宅看護師と日常の状態について、週3日訪問、電話連絡にて指示を仰いでおり、訪看申し送りにて記録している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	必要時には、入院時の24時間付き添い等、安心して治療できるよう対応しており、入院時には看護サマリー、介護サマリーを作り関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向け、早い段階から本人様、御家族と話し合い、看取り指針についての同意をご家族より頂いている。	入居時に、重度化や終末期の対応指針について説明し、ホームで出来る事・出来ない事 の了解を得ている。状態が進んだ際は、医師から家族へ直接状態の説明を行い、意向を再確認している。家族・看護師・職員をまじえて十分に話し合い、今後の方針を理解・共有してチームで終末期に向けたケアに取り組んでいる。これまでに4人の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当についてのマニュアル作成している。今後、施設内研修を行い救命救急講習を受講するよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の消防訓練を実施し、うち1回は消防署の立会いの下に実施している。	消防訓練は年2回、内1回は消防署立ち会いの下、夜間を想定した訓練も行っている。消火器・スプリンクラー・火災報知器・自動火災通報装置等は完備している。地震・水害対策訓練や災害時の役割分担と備蓄が十分とは言えない。	全職員が万一の災害発生(特に夜間)に備え、初期動作がスムーズに出来るように役割を決めて、実践訓練の頻度を増やすことを期待する。避難した利用者の見守り役に限定した近隣住民の協力依頼と食料品、医薬品等、衛生用品などの備蓄が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格、プライバシーを尊重し、声掛け、介助の仕方、等について職員間で話し合いながら最適な対応が図れるよう支援を行っている。	「全ての人の尊厳を大切に」という理念を掲げて全職員が利用者を人生の先輩として尊敬の念を持って言葉遣いや対応をするように細心の注意を払って日々のケアに努めている。不適切と思われる気付きがあった場合は、フロアリーダーや管理者または職員同士で注意している。個人情報に関わる書類は、事務所に保管し夜間は施錠している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表出が苦手な入居者様などに対しては、本人様の深層心理を傾聴し、本人様が今何をしたいのか？自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを基本としてその方に添ったペースで職員が介助を進めており、起床時、食事、入浴時利用者様様の気分不良や都合で変更している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容、美容訪問をご利用して頂き本人様やご家族様の意向を確認しながら支援させていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な入居者様には、食事の準備や片付けを手伝っていただき、調理方法についても入居者様のご意見を参考にしながら、共に調理、盛り付けを行っている。	給食業者から毎日届く食材をレシピに沿って職員(含む専任4人)が交代で、料理の得意な利用者の意見を取り入れながら目の前で提供している。可能な利用者は、盛りつけや後片付けを手伝っている。好みの食事を隔月位に、おやつは度々手作りして楽しんでいる。職員も家族の一員として談笑しながら一緒に食べている。年4~5回は外食に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全体としては食材業者に委託し、栄養バランス、カロリー管理を行っています。又、栄養指導のもと、個々の状態に応じて随時対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しており、必要に応じて、訪問歯科による衛生管理をして頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様及びご家族と話し合い、布パン、オムツ、リハパンの中からその方に適したものを選び使用している。又入居者様の訴えや、排泄周期に合わせてトイレ誘導している。	排泄チェック表で夫々の排泄パターンを把握し、余裕を持って声かけてトイレでの排泄支援を行っている。平均介護度は3.2と高いが、尿・便意を自覚してトイレで排泄する完全自立者は約半数居る。昼間のオムツ使用者は1人だけである。夜間も自分でトイレに行く人が多く安眠を重視し、声かけ誘導するのは少ない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に関しては食材業者に委託しており、予防に心がけるとともに、おやつ等により排便を促す食材を使用しており、水分補給の管理等も行っている。また、体操や散歩など身体を動かして頂けるよう心掛け、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望を優先に対応しているが、判断できない利用者様に関しては、声掛けしながら本人の状態確認し、気分良く入浴できるように努力している。	毎日、午前・午後に分けて週2回以上ゆっくりと入浴出来るように支援している。体調や希望により回数・時間・足浴・清拭等柔軟に対応している。重度利用者の安全・安心と職員の負担軽減が出来る2方向介助可能な浴槽である。入浴を嫌がる利用者には無理強いせず日時や人を替えたり声かけの工夫をして気持ち良く入ってもらうよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様の生活リズムを尊重し体調の変化を考慮して休息をとって頂いている。また、一人一人の生活パターンを把握し、個々の状況に応じて時間差で離床、着床して頂くよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬品については変更時あるいは、疑問等がある場合は、随時薬剤師、看護師に確認しており副作用、用法容量についても指示指導を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人ひとりの出来ること、好きな事を探りながら日々の生活の中で気分転換を図りながら、楽しんで頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望にはご家族と協力しあい、出来るだけ柔軟に対応している。甘いものが食べたいという思いがあれば近くのお店に出かけ本人様の思いを見過ごさないように心がけている。	直ぐ近くに桜之宮公園・桜宮神社・大川が在り四季の景観が素晴らしく、都心のオアシスのような環境を存分に活かした日常的な外出支援を行っている。計画表を作り偏りのないように配慮している。大阪城公園・天王寺動物園・緑地公園等の遠出の他、グループ全体のバス旅行(大型バス12台)は利用者・家族・職員のみな年中行事である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な限り本人様に管理して頂き、買い物等もして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な限り、本人様の希望に添えるよう支援させて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お正月、ひな祭り、夏祭り、クリスマス会等季節感を取り入れ飾り付けを行い、冬場は乾燥を防ぐため、加湿器で調整を取り、夏場は冷風が巡回するように空調管理をしている。	広くて明るいリビング兼食堂には、テーブル、ソファ、テレビ、本棚等をうまく配置し、利用者同士が談笑しながらテレビを観たり、面会に来た家族とゆっくりと話し合えるように工夫している。リビングおよび廊下の壁に絵画や利用者が職員と一緒に作った季節感のある絵手紙や折り紙細工に習字、行事の写真等が飾られており居心地良く過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間内では、利用者様が一番落ち着いて過ごせる場所になっている。テレビを観たり、スタッフと談話したりできるスペースもあり、自由に過ごすことができる空間づくりを心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、本人様の馴染みの物等についてはご持参して頂き、入居後も随時ご相談しながら、本人様の意向に沿えるように配慮させて頂いている。	居室には、ベッド、洗面台、クローゼット、エアコン、ナースコール、防災カーテンが設置されている。利用者は、使い慣れたタンスやテレビ、机、椅子に家族の写真等を持ち込み、これまでと変わらぬ落ち着いた居心地良い生活が出来るように職員が支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合った身近で出来る事を探り、声掛け、見守り等を行いながら、無理をせず行って頂けるよう努めている。また移動の動線についても注意し、家具の配置等に配慮しながら安全対策をしている。		